古文 文学史 まる見え1枚シート

時代とジャンルで作品と作者を一望。「いつ・だれが・なに」をセットで覚えれば文学史は怖くない！

★★★ 入試超頻出　★★ よく出る　★ 余裕があれば　💡 覚え方　▶ 例文

奈良（最古） ▶ 平安（黄金期） ▶ 鎌倉（隠者文学） ▶ 室町（軍記・能） ▶ 江戸（俳諧・町人）

時代の順番がまず最優先。次に「ジャンル＋作者＋成立年代」をセットで押さえると入試で迷わない。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ（見出しの番号が順番です）

1 奈良時代（〜794） 最古のものが集中

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点・覚え方
古事記	歴史書（神話）	太安万侶 撰録／稗田阿礼 誦習 712年	★★★	現存最古の歴史書。変体漢文で書かれる
日本書紀	歴史書（正史）	舎人親王ら 720年	★★	最初の正史。純漢文・編年体
万葉集	歌集	大伴家持ら編か 奈良末期	★★★	現存最古の歌集。約4500首・万葉仮名
風土記	地誌	各国の役人 713年〜	★	地方の産物・地名由来。出雲国風土記が完本

💡 古事記と日本書紀の区別：「古事記＝変体漢文・国内向け／日本書紀＝純漢文・正史・対外向け」。記紀（きき）と並び称される。

▶ 万葉集の特徴：素朴で力強い「ますらをぶり」の歌風 → 平安の古今集の繊細な「たをやめぶり」と対比で問われる。

2 平安時代（794〜1185） 仮名文学の黄金期

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
▼ 物語（作り物語・歌物語）				
竹取物語	作り物語	未詳 平安初期	★★★	現存最古の物語。「物語の出で来はじめの祖（おや）」
伊勢物語	歌物語	未詳（在原業平が主人公モデル） 平安初期	★★★	最古の歌物語。「昔、男ありけり」で始まる125段
大和物語	歌物語	未詳 10世紀半ば	★	歌にまつわる説話的な短編集
うつほ物語	作り物語	未詳 10世紀後半	★	現存最古の長編物語。琴の伝来が主題
落窪物語	作り物語	未詳 10世紀末	★	継子（ままこ）いじめ物語の代表（シンデレラ型）
源氏物語	作り物語	紫式部 11世紀初め	★★★	全54帖の長編。光源氏が主人公。もののあはれの世界
▼ 和歌集（勅撰＝天皇の命で編む）				
古今和歌集	勅撰和歌集	紀貫之ら（醍醐天皇下命） 905年	★★★	最初の勅撰和歌集。仮名序は紀貫之
▼ 日記・随筆（女流文学が花開く）				
土佐日記	日記	紀貫之 935年頃	★★★	最初の仮名日記。男が女に仮託して書く
蜻蛉日記	日記	藤原道綱母 974年以降	★★★	最初の女流日記。夫兼家への苦悩を記す
和泉式部日記	日記	和泉式部 11世紀初め	★★	敦道親王との恋愛。歌を多く含む
紫式部日記	日記	紫式部 11世紀初め	★★	宮仕えの記録。清少納言批判で有名
更級日記	日記	菅原孝標女 1060年頃	★★★	少女時代の物語への憧れ〜晩年の回想。作者は道綱母の姪（蜻蛉日記の作者は母方のおば）
枕草子	随筆	清少納言 1000年頃	★★★	最初の随筆。「をかし」の文学。一条天皇中宮定子に仕える
▼ 歴史物語・説話				
大鏡	歴史物語	未詳 11〜12世紀	★★★	四鏡の最初。藤原道長の栄華を批判的に。老人の対話形式・紀伝体
今昔物語集	説話	未詳 12世紀前半	★★★	最大級の説話集。各話「今は昔」で始まる。天竺・震旦・本朝の三部

💡 清少納言 vs 紫式部：「清少納言＝枕草子＝をかし＝中宮定子」／「紫式部＝源氏物語＝あはれ＝中宮彰子」。仕えた后が違う！

💡 紀貫之は2つ：「古今和歌集（最初の勅撰）」と「土佐日記（最初の仮名日記）」。両方とも"最初"でセット出題。

▶ 更級日記の血縁：菅原孝標女の母方のおば＝蜻蛉日記の藤原道綱母。「日記文学の女性は親戚」とつなげて記憶。

3 鎌倉時代（1185〜1333） 無常観と隠者文学

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
新古今和歌集	勅撰和歌集	藤原定家ら（後鳥羽院下命） 1205年	★★★	第8番目の勅撰集。本歌取り・三句切れ・体言止め・幽玄
方丈記	随筆	鴨長明 1212年	★★★	無常観の代表。「ゆく河の流れは絶えずして…」和漢混淆文
徒然草	随筆	兼好法師（吉田兼好） 1331年頃	★★★	「つれづれなるままに…」全243段。知的・批評的
平家物語	軍記	未詳（信濃前司行長か） 13世紀前半	★★★	軍記の代表。琵琶法師が語る。「祇園精舎の鐘の声」無常観
宇治拾遺物語	説話	未詳 13世紀前半	★★★	説話集。「こぶとりじいさん」「わらしべ長者」等
小倉百人一首	私撰歌集	藤原定家 撰 13世紀	★★	百人の和歌を一首ずつ。定家は新古今の選者でもある

💡 方丈記 vs 徒然草の混同注意：「方丈記＝鴨長明＝ゆく河」／「徒然草＝兼好＝つれづれ」。書き出しで覚えると間違えない。

▶ 定家は2作で頻出：父子で和歌の名家。「新古今和歌集（勅撰の選者）」＋「小倉百人一首（私撰）」をセットで。

4 室町時代（1336〜1573） 軍記と能の大成

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
太平記	軍記	未詳（小島法師か） 14世紀後半	★★	南北朝の動乱を描く大軍記。太平記読みで流布
御伽草子	短編物語群	未詳（多数） 室町期	★★	「一寸法師」「浦島太郎」等の庶民的短編の総称
風姿花伝	能楽論	世阿弥 15世紀初め	★★	能の理論書（＝花伝書）。「秘すれば花」

💡 能の親子：観阿弥（父）が能を大成、世阿弥（子）が理論書『風姿花伝』を著す。将軍足利義満の庇護。

5 江戸時代（1603〜1868） 俳諧・浮世草子・浄瑠璃

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
おくのほそ道	俳諧紀行	松尾芭蕉 1694年頃成立	★★★	東北・北陸の旅。「月日は百代の過客にして」蕉風俳諧
好色一代男	浮世草子	井原西鶴 1682年	★★	浮世草子の最初。町人の世界を描く
曾根崎心中	浄瑠璃（脚本）	近松門左衛門 1703年	★★	世話物の代表。義理と人情の板挟み
雨月物語	読本（怪異小説）	上田秋成 1776年	★★	怪異・幻想短編集。「浅茅が宿」「菊花の約」等

💡 元禄の三文豪：「俳諧の芭蕉／浮世草子の西鶴／浄瑠璃の近松」。ジャンルとセットで3人を区別。

▶ 「過客」つながり：おくのほそ道の冒頭は、李白の詩文（「春夜宴桃李園序」）を踏まえた表現。漢文の素養が江戸文学にも流れ込む。

6 重要まとめ枠（ここだけは丸暗記）

三大随筆 成立順がポイント

作品	作者	時代
枕草子	清少納言	平安
方丈記	鴨長明	鎌倉
徒然草	兼好法師	鎌倉

💡 順番は「枕→方丈→徒然」＝平安→鎌倉→鎌倉。

四鏡（しきょう） 成立順を覚える

作品	時代	覚え方
大鏡	平安	大→今→水→増 だい・こん・すい・ぞう
今鏡	平安末	
水鏡	鎌倉	
増鏡	南北朝	

💡 成立順「大根すいぞう（だいこんすいぞう）」で4つ一気に！

7 ジャンル別 代表作 早見表

ジャンル	代表作（時代順）	ひとこと
歴史物語	大鏡（平安）→ 四鏡へ	歴史を物語風に。紀伝体・対話形式
軍記物語	平家物語（鎌倉）→ 太平記（室町）	合戦と武士の興亡。和漢混淆文・無常観
説話	今昔物語集（平安）→ 宇治拾遺物語（鎌倉）	仏教説話・世俗説話。庶民的で教訓的
日記	土佐（紀貫之）→ 蜻蛉 → 和泉式部 → 紫式部 → 更級	土佐以外はほぼ女流。回想・心情
勅撰和歌集	古今（平安・最初）→ 新古今（鎌倉・8番目）	古今＝たをやめぶり／新古今＝本歌取り・幽玄

💡 「最初の○○」総まとめ：歌集＝万葉集（現存最古）／勅撰集＝古今和歌集／物語＝竹取物語／歌物語＝伊勢物語／仮名日記＝土佐日記／随筆＝枕草子／浮世草子＝好色一代男。この7つは超頻出！